



地域密着型金融の取組み状況

平成24年4月 ~ 平成25年3月
(平成24年度)

ひと、まち、きずな大切に。

飯能信用金庫

平成24年度の取組みについて

当金庫では、地域密着型金融（リレーションシップバンキング）の推進にあたり、平成15年から2度のアクションプログラムを掲げ、平成19年3月末の「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム」終了後も、地域の活性化を恒久的な経営課題として位置付け、その取組みを強化し成果をあげてまいりました。

平成24年度は、前年度に引き続き次に挙げる3項目の各種施策に取り組みました。

- ・ ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化
- ・ 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給方法の徹底
- ・ 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

平成25年6月
飯能信用金庫

ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

■ **創業・新事業支援**

創業期のお客様に向けて、創業・新事業支援融資、企業育成ファンドへの出資などの支援をしています。

■ **経営改善支援**

平成24年度は、**46先の取引先に対して、経営支援**を実施しました。埼玉県中小企業再生支援協議会との連携による経営改善計画の作成支援や、継続的なモニタリング、企業の専門性の高い課題解決のための専門家派遣制度の活用、知的資産経営専門セミナーの開催、知的資産経営報告書作成支援等を通して、助言や提案を実施しております。

また、**財務コンサルティングツールとして、「企業診断」の積極的な活用**（財務診断資料の提供）に取り組みました。平成24年度の活用実績は**4,614先**となっております。

専門家派遣制度を活用した経営改善支援事例(1)

販路拡大に課題を抱えるA製造業

【取組の経緯】

A社は大手企業を得意先に持つ製造業で、季節要因による売上高の増減、仕事の繁忙が問題点となっていました。これまでも得意先企業を増やすための営業活動は行ってはいたものの、思うような成果に結びついてはいなかったため、「知的資産経営報告書」を作成し、営業活動のツールとして活用することを提案、専門家と連携し作成支援を行うこととなりました。

【内容と成果】

幹部社員を中心に、当金庫職員、専門家で概ね月2回検討会議を行いました。自社の知的資産を確認し、他社との差別化となる取組み等について議論を重ねることにより、自社の課題を認識することにもつながりました。

作成過程における従業員の意識向上などの成果が現れ始めており、今後「知的資産経営報告書」を営業活動のツールとして活用していく予定です。

専門家派遣制度を活用した経営改善支援事例(2)

資金繰りに窮していたB製造業

【取組の経緯】

B社は商社等を得意先に持つ製造業で、過去の設備投資の借入金返済や、生産性向上の遅れ、価格競争による利幅の減少等から、毎月の資金繰りに窮していました。当金庫職員が代表者と面談を重ね、仕入、製造、販売全体の改善による資金繰りの改善が必要であることで意見が一致したため、専門家派遣制度を活用することとなりました。

【内容と成果】

大手製造業の経理業務、原価管理業務に長年従事した専門家が派遣されました。派遣当初は、講義形式による財務、特に資金繰りに関する説明が行われ、資金繰りの重要性の意識づけが行われました。その後、経営者、製造担当者、営業担当者、経理担当者等を交えた延べ4ヶ月の議論を通じ、会社全体の現状把握、部門別の問題点、課題、改善策の抽出が行われ、得られた結果を「経営改善計画書」として作成、5カ年の経営目標が設定されました。

これまで同社では、社外の第三者を交えた議論を行う機会はありませんでしたが、専門家、当金庫職員を交え議論を繰り返すことで新たな気づきを得ることができ、また、現状分析を十分踏まえた「経営改善計画書」で目標が明確となり、今後の経営の指針となっています。

外部機関と連携した経営改善計画の作成支援事例

借入過多と売上の停滞の問題を抱えるCサービス業

業歴が長期にわたるCサービス業は、バブル経済期の設備投資、バブル経済崩壊後の売上高の停滞により、資金繰りに苦慮していたため、専門家派遣制度による個別経営課題への対応、運転資金の融資による資金繰りの安定化への対応を行い、経営は安定しつつありましたが、今期はさらに、埼玉県中小企業再生支援協議会との連携により経営改善計画の作成支援をするとともに、財務内容改善、返済負担の軽減のためにDDS(デッド・デッド・スワップ)を実行し、経営改善を加速させました。

売上高の急激な減少、資金繰りに問題を抱えるD製造業

量産部品の製造を得意とするD製造業は、リーマンショック直後から売上高が急激に減少、借入過多による元金の返済負担が大きくなっていました。資金繰り改善のため、関連金融機関と連携しリスケジュールを実施、埼玉県中小企業再生支援協議会との連携により、経営改善計画の作成支援を行いました。同時に個別経営課題への対応として専門家派遣を実施、当金庫職員も議論に参加し、改善策を検討しました。

外部機関との連携した取引先企業の支援事例

「知的資産経営専門セミナー」の開催

「知的資産経営専門セミナー」を経済産業省・中小企業基盤整備機構と連携し、12月から3月にかけて4回開催しました。8社の経営者と従業員にご参加いただき、自社の「知的資産」について、専門家の指導のもと当金庫職員を交え議論を重ね、「事業価値を高める経営レポート」の作成を行いました。

参加されたお客様からは、「自社の経営力向上、従業員教育、事業承継に役立たい。」「今後のビジョンが明確になった。」「漠然と捉えていた自社の強み・弱み・機会・脅威をレポートにまとめ、見える化したことで認識が深まった。」などの感想が寄せられました。当金庫においても参加された企業への理解が深まりました。



事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給方法の徹底 (1)

■ 取引先の事業価値を見極める中小企業に適した資金供給

当金庫では、財務制限条項を活用した商品により、お客様の事業内容や経営計画に柔軟に対応した資金の供給を行っています。

また、財務内容の精度が相対的に高いお客様に対する融資商品の提供により、様々な資金ニーズに対応しています。



ひと、まち、きずな大切に。
飯能信用金庫

事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給方法の徹底 (2)

■ 企業の将来性・技術力を的確に評価できる能力等の育成

お客様との密接な関係を維持していくなかで、お客様の経営状況や、事業の将来性などの情報を蓄積し、ニーズを的確に把握することで、貸出などの金融サービスを提供しております。そのため**融資実務に強い人材育成と中小企業診断士の育成**に力を入れ、お客様へのアドバイザー能力の向上を図っております。

夜間勉強会と土曜セミナーの開講

お客様のニーズの的確な把握と判断能力の向上やケーススタディーによる提案・アドバイス技術の修得を行い、貸出などの金融サービス提供につなげております。

中小企業診断士育成

中小企業診断士は、毎年1～2名程度の合格者を輩出しており、平成25年6月現在で有資格者は16名となりました。

地域密着型の金融機関として、お客様に対するコンサルティング機能を発揮できる人材育成に取り組んでおります。

事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給方法の徹底 (3)

■ 地域金融円滑化への取り組み

飯能信用金庫は「**地域金融円滑化のための基本方針**」を定め、必要な資金の安定的な供給と地域経済の発展に取り組んでおります。

お客様からの貸付条件の変更等に関する相談・苦情の受付窓口

当金庫では中小企業金融円滑化法の期限到来後もこれまでと変わらず対応してまいります。お客様からの**貸付条件の変更等に関する相談受付窓口を審査グループ・審査企画グループ、苦情受付窓口をコンプライアンスグループ**に設置しております。

地域貢献資金「CSR」による融資

「地域社会の活性化に繋がる事業」を金融面から支援し、社会的責任を果たすことを目的として、**地域貢献資金「CSR」**を平成19年4月から販売しています。平成21年11月には「緑化や農業振興、介護事業等」の分野にも資金活用できるよう対象範囲を拡大し、社会的事業や地域貢献事業をさらに強力にバックアップできるようになりました。**平成24年度は24件で230百万円**の融資を実行しています。



ひと、まち、きずな大切に。
飯能信用金庫

・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(1)

■ 「はんしん景況レポート」発刊

当金庫では、営業地区である埼玉県南西部・東京都三多摩地区一部の**中小企業景気動向調査**を実施し取り纏めています。

主要業種の実態調査による中小企業の構造的変化の情報や、地域の成長企業の実例紹介など、中小企業をめぐる新しい動きについて情報提供しています。

平成24年度も4回発刊し、**4,100部を取引先等に配布**しました。

本レポートは、創刊以来62号を数えるまでになりました。



・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(2)

■ 若手経営者・後継者向け経営塾「竹林舎」開講

若手経営者・後継者を対象とした経営塾である「竹林舎」は、平成25年2月に第7期が開講し、立教大学大学院の講師陣のもと塾生27名が実践的な経営を学んでいます。

平成18年9月の開講以来、第1期生31名、第2期生30名、第3期生29名、第4期30名、第5期30名、第6期30名の延べ180名の若手経営者・後継者が卒塾しており、平成20年4月には「竹林舎OB会」が発足しております。OB会ではセミナー等が開催されており、卒塾生の中には立教大学ビジネススクールで学ぶ方もでてきています。また、期を越えた交流のなかで、会員企業間でビジネスマッチングも発生しています。



ひと、まち、きずな大切に。
飯能信用金庫

・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(3)

■ 「はんしん地域貢献セミナー」開催

当金庫の基本方針に掲げる「地域企業のニーズに迅速に対応し、地域産業の振興と地域活性化に貢献します。」の具現化策として「はんしん地域貢献セミナー」をお客様向けに開講しています。

平成24年度は、

- ・工場における電力削減事例からの提案
- ・ホスピタリティサービス
- ・メンタルヘルス対策とストレスコントロール法
- ・幹部候補に期待される役割とリーダーシップ
- ・クレームに対する意識改革とクレーム対応の技法を学ぶ

をテーマに5回開催しました。

平成20年7月の開講以来の開講は26回となりました。



・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(4)

■ 「ビジネスアリーナ2013」主催

平成25年1月30日(水)31日(木)「ビジネスアリーナ2013」を、財団法人埼玉県産業振興公社および県内金融機関と共に主催者としてお客様企業の出展をバックアップしました。

埼玉県内の**556社**の企業に技術や製品を展示していただき、**来場者数は、1万6,487人**を数え、**2,013件の商談等**が行われました。



ひと、まち、きずな大切に。
飯能信用金庫

・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(5)

■ 「まちづくり”飯能”協議会」を通じた支援

当金庫は、飯能商工会議所と「まちづくり”飯能”協議会」を平成20年4月に立ち上げ、地域活性化に関する具体策の検討・協議を行っています。

飯能銀座商店街の「100円商店街」は当協議会の支援で平成22年5月から始まり、平成24年度は7回開催されました。また、中央通り商店街の「飯能軽トラ市」は、平成23年5月より始まり4回開催しています。当金庫では、両イベントに対し、来訪者向けと出展者向けのアンケートを実施しており、調査結果の分析などの支援もしています。



ひと、まち、きずな大切に。
飯能信用金庫

. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(6)

■ 「埼玉県西部地域雇用促進協議会」への参加

当金庫は、埼玉県西部地域に所在する大学の学生を同地域の企業への就職を促進する取組みとして、埼玉県西部地域雇用促進協議会に参加しています。

同協議会では年2回、**埼玉県西部地域企業合同説明会**を開催しており、当金庫も地域のお客様に向けて合同企業説明会への出展を呼びかけています。

平成24年度は2回(第12回、第13回)の合同企業説明会が実施され、**第12回には48社の企業と150名の学生、第13回には40社の企業と509名の学生が参加しました。**

地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(7)

■ 地元大学との連携(その1)

【駿河台大学】

平成19年3月に「産学連携に関する協定を締結し、様々なプロジェクトを実施しております。

平成24年度は、以下の取り組みをしました。

「飯能市消費動向調査」の実施

第6回「輝け！飯能プランニングコンテスト」

開催

第6回「地域活性化講演会」開催

インターンシップの促進(59企業・団体へ94名の学生を取次)

当金庫へ2名のインターンシップ学生の受入

経済学部寄付講座「金融TODAY」への講師派遣(13回)

事業化支援活動および商店街振興活動への支援



ひと、まち、きずな大切に。
飯能信用金庫

・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(8)

■ 地元大学との連携（その2）

【城西大学】

平成22年6月に「産学連携に関する協定」を締結し、以下の取組みをしました。
地域企業へのインターンシップ促進（6企業・団体へ12名学生取次）
当金庫へ2名のインターンシップ学生の受入
経済学部寄付講座「**地域金融機関のトウディ&フューチャー**」へ講師派遣（11回）

【東洋大学】

平成18年7月「産学連携における業務連携・協力に関する協定書」を締結し、技術相談の取次ぎを行っており、これまでに10件を取次ぎしました。また、3月に当金庫職員向けの「**メンタルヘルス研修**」を開催しました。

【東京国際大学】

平成22年9月に「相互協力・連携に関する包括協定書」を締結し、以下の取組みをしました。
地元企業へのインターンシップ促進（6企業・団体へ8名の学生を取次）
当金庫へ2名のインターンシップ学生の受入
寄付講座「**地域金融最前線**」へ講師派遣（12回）

・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(9)

■ 地元大学との連携（その3）

【文京学院大学】

平成23年3月に「相互協力・連携に関する包括協定書」を締結しました。10月から12月にかけて「**金融研究会**」(5回)に講師を派遣し、学生45名が参加しました。

【埼玉大学】

埼玉大学総合研究機構地域オープンイノベーションセンターと平成23年9月に「産学連携の協力推進に関する覚書」を締結し、平成24年3月に「**産学連携調印記念講演会**」を開催しました。

【西武文理大学】

平成23年10月に「産学連携の協力推進に関する覚書」を締結しました。インターシップに関して取組んでいきます。

【武蔵野学院大学】

平成24年6月に「産学連携の協力推進に関する覚書」を締結し、平成25年3月同大学、狭山市、当金庫の連携で「**子ども大学さやま実行委員会**」を発足しました。

ひと、まち、きずな大切に。

飯能信用金庫

・地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献(10)

■ 地域活性化助成金制度による支援

創立60周年を記念して、平成23年7月に「**はんしん地域活性化助成金**」を創設しました。

助成対象を「原則として営業地区内において地域を構成する自然・歴史・風土・文化・知恵を活かし、またはスポーツ等を通して地域の活性化に資する事業」とし、

文化事業の振興

まちづくりの振興

商店街活性化

里山の再生活動

青少年のスポーツ振興

などに助成金を交付しています。



はんしん
Linking Bank

